ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　124　号
２０１９．７．６

目　次

第５回北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞表彰式……1
2019年度北海道考古学会第56回総会報告……2
2019年度研究大会報告「北海道島の成立、自然災害と考古学」……6
北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の募集について……7
月例研究会の発表者募集……8
事務連絡……8

第５回北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞表彰式

５月11日、北海道大学学術交流会館２階講堂にて、第５回北海道考古学会賞ならびに北海道考古学会奨励賞の表彰式が行われました。

この賞の目的は、今日まで会を支えてこられた方々を顕彰し、またこれから会を支えてくださる方を発掘することにあります。石川副会長を選考委員長とする選考委員会が複数回実施され、自薦他薦の応募から北海道考古学会賞は西幸隆氏に、奨励賞は三谷智広氏に贈呈されました。

授賞理由（要旨）は次の通りです。

学会賞　西 幸隆 氏

【受賞理由】西幸隆氏は、北海道釧路市生まれ。釧路湖陵高等学校の考古学研究部に入部し、釧路市立郷土博物館（現釧路市立博物館）の澤四郎氏のもとで緑ヶ丘遺跡などの発掘調査に参加して考古学に興味をもち、駒澤大学に入学してから本格的に考古学の道を歩み始めました。大学を卒業後、釧路市立郷土博物館に就職し、東釧路貝塚、東釧路第２遺跡、幣舞遺跡、材木町５遺跡、北斗遺跡、フシココタンチャシ跡など北海道の考古学史に残る数多くの遺跡の発掘調査を行い、報告書として刊行されました。1990（平成２）年から1996（平成８）年までは、釧路赤十字看護専門学校で非常勤講師として文化人類学のうち特に「異文化理解」についての講師を務めました。

北海道考古学会の委員として本学会に貢献したほか、1992（平成４）年から北海道教育大学釧路校で考古学の非常勤講師を勤め、1996（平成８）年から日本考古学協会委員（現理事）として２期４年に渡り日本考古学の最前線で活躍されました。1999（平成11）年には、北海道考古学会が全面的に協力し、北海道では29年振りとなる日本考古学協会釧路大会（開催テーマ：海峡と北の考古学－文化の接点を探る－）を誘致し大会実行委員として開催に尽力されたことが特筆されます。

1991（平成３）年からは釧路市埋蔵文化財調査センター長、2004（平成16）年からは釧路市立博物館長として北海道の埋蔵文化財、社会教育に大いに貢献され、2004（平成16）年には文部大臣表彰を受賞されています。

現在も北海道埋蔵文化財センター評議委員、釧路市文化財保護審議会委員、標茶町文化財専門委員会委員長、標茶町博物館運営審議会委員長、厚岸町史跡国泰寺跡保存整備委員会副委員長として遺跡保存等で活動を続けられており、1933（昭和８年）に発足した釧路考古学研究会の会長としても活躍されています。

奨励賞　三谷智広氏

【受賞理由】三谷智広史は、動物遺存体を主な対象とする研究者です。研究の特色と成果は、なにより資料の地道な同定と分析にあります。特に近世アイヌ文化期の貝塚分析において伊達市有珠湾周辺の資料同定を自ら行い、当該期の地域的な生業活動の分析を手掛ける一方、同定に不可欠な現生骨格標本の作製を行い、動物考古学研究において土台となる活動を地道に行ってきました。

資料の分析は同定のみならず、動物遺存体から導き出される狩猟・漁労活動の季節性分析や解体痕の観察など多岐にわたり、動物骨から過去の人々の生業活動を理解しようとする姿勢が評価されます。

2006（平成18）年に札幌大学大学院修士課程を修了後は、洞爺湖町教育委員会に奉職するかたわら、

史跡入江・高砂貝塚の動物遺存体を分析されています。「人と動物とのかかわり」をテーマに、縄文から近世にかけての生業活動を分析する研究活動を継続しており、今後も更なる研究の発展が期待されます。また、洞爺湖町は世界文化遺産の推薦候補である「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産を有しており、史跡整備のほか、住民に対する講座の実施など、考古学を市民に広げる活動を積極的に行っており、この点においても活躍が期待されます。

2019年度　北海道考古学会第56回総会報告

５月11日11時10分より、北海道大学学術交流会館２階講堂にて、本年度の定期総会が開催されました。会員数329名に対し、本人出席46名、委任状出席88名、合計134名で、総会成立要件である会員数の５分の１以上の出席を得たため、総会は成立しました。議長には第１地区の澤井玄会員を選出し、下記の議案について審議されました。この結果、下記の通り原案通り承認されましたので、ご報告いたします。

１号議案　2018年度会務報告

(1) 事業報告

ア　第55回定期総会・研究大会

期　　日：2018年５月12日（土）
場　　所：北海道大学　人文・社会科学総合教育研究棟W103教室
総　　会：2017年度会務報告，2018年度会務計画案
研究大会：テーマ「北海道の縄文人の登場」
参 加 者：120名

イ　運営委員会

回数	開催日	主たる議題
第１回	４月21日	研究大会・総会など
第２回	６月16日	運営委員業務担当・だよりなど
第３回	９月15日	遺跡報告会・研究大会・だよりなど
第４回	10月20日	遺跡報告会・研究大会・だよりなど
第５回	11月17日	遺跡報告会・研究大会・だよりなど
第６回	１月26日	研究大会・学会賞・会誌・だよりなど
第７回	２月23日	学会賞・研究大会・総会準備など
第８回	３月16日	学会賞・研究大会・総会準備など

ウ　月例研究会

第１回：６月16日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W105教室）：６名
①種市幸生「比羅夫北征記事をいかに読み解くべきか－粛慎＝オホーツク文化人説はほんとうか－」
第２回：11月10日（札幌学院大学B101教室）と共催：35名
札幌学院大学総合研究所シンポジウム「文化遺産と地域振興」
①佐藤宏之（東京大学大学院人文社会系研究科）「北海道の旧石器文化」
②大塚宜明（札幌学院大学）「置戸町黒曜石原産地における札幌学院大学の調査」
③塚田直哉（上ノ国町教育委員会）「上ノ国町における文化遺産の保存と活用」
④浅野正樹（凸版印刷株式会社）「観光立国・地方創生に向けた文化財VRの取り組み」
⑤討論「地域振興における文化遺産の活用」
第３回：３月16日　（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W102教室）：７名
①村本周三（北海道教育委員会）「北海道における土器付着部炭化物安定同位体分析の現状」

エ　遺跡見学会

休　　止

オ　遺跡調査報告会

期　　日：2018年12月８日（土）
場　　所：北海道大学学術交流会館小講堂
内　　容：道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑
参 加 者：125名

カ　連絡紙『北海道考古学会だより』の発行

121号：2018年　7月16日発行
122号：2018年11月　9日発行
123号：2019年　3月10日発行

キ　学会ホームページ

2018年3月まで（12ヶ月間）更新回数：8回

ク　会誌編集委員会の活動

会誌『北海道考古学』第55輯の発行（2019年3月発行　360部）

ケ　特別委員会の活動

な　し

(2) 2018年度収支決算報告

収　入

項　目	費　目	予算額(A)	決算額(B)	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,500,000	1,487,000	▲ 13000	2019年度会費…218件
事業収入	研究大会収入	140,000	141,000	▲ 9,000	研究大会資料集販売 94部×1500円
	遺跡見学会収入	―	―	―	事業休止のため予算なし
	遺跡調査報告会収入	100,000	90,000	▲ 10,000	遺跡調査報告会資料集販売 100部×1,000円
	会誌等販売収入	73,000	90,382	▲ 17,382	会誌・資料集販売
	小　計	313,000	321,382	▲ 1,618	
雑　入		308	0	▲ 308	
繰越金		716,692	716,692	0	
合　計		2,540,000	2,525,074	▲ 14,926	

支　出

項　目	費　目	予算額(A)	決算額(B)	残(▲超過)額	備　考
事業支出	研究大会費	400,000	285,656	114,344	要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等
	遺跡見学会費	―	―	―	事業休止のため予算なし
	研究会費	60,000	0	0	案内発送、研究会共催費、発表者交通費
	遺跡調査報告会費	400,000	286,136	113,864	資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等
	会誌印刷費	665,000	595,080	69,920	第55輯　360部／振り込み手数料
	だより印刷費	170,000	133,758	36,242	121号・122号・123号／振り込み手数料
	ホームページ費	5,000	3,402	1,598	プロバイダー契約料、更新維持管理費／振り込み手数料
	小　計	1,700,000	1,304,032	395,968	
事務支出	報償費（総会費）	50,000	50,000	0	学会奨励賞
	委員会費	100,000	24,660	75,340	運営委員会・編集委員会出席用交通費
	消耗品費	50,000	9,078	40,922	文房具代・コピー代等
	通信費	200,000	136,740	63,260	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃　金	60,000	43,000	17,000	会誌・だより等の発送・その他事務処理
	小　計	460,000	263,478	196,522	
基金積立金		60,000	60,000	0	
予備費		320,000	0	320,000	
合　計		2,540,000	1,627,510	912,490	

2018年度決算

項　目	費　目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(B－A)	備　考
	収入総計	2,540,000	2,525,074	▲ 14,926	
決算額差引	支出総計	2,540,000	1,627,510	▲ 912,490	
決算額差引	収入総計（B）－支出総計（B）			897,564	

項　　目	費　　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年５月29日 10,000円送金 平成18年３月22日 10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	平成20年３月31日 10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
	50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
	保存対策費積立金		100,000	1,420,000	2012年度積立(過年度支出分補填)
	保存対策費積立金		100,000	1,520,000	2013年度積立(過年度支出分補填)
	60周年記念研究大会積立金		240,000	1,760,000	
合　　計				1,760,000	
	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		1,683,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		1,523,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		1,463,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		1,223,000	2003年度支出
	50周年記念研究大会費	250,000		973,000	2003年度支出
合　　計		787,000			
基　　金　　残　　高				973,000	

(3) 2018年度監査報告

北海道考古学会の2018年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2019年４月26日　監査委員　工藤　義衛　㊞
2019年４月25日　監査委員　角田　隆志　㊞

２号議案　2019年度会務計画

(1) 事業計画案

ア　基本方針

①北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。

②考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」を設置するなど、研究環境の変化に機動的に対処しうる体制をとる。

③だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。

④会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る。

イ　2019年度事業計画

①研究大会

日　　時：2019年５月11日（土）　10～17時
場　　所：北海道大学　学術交流会館　２階講堂
テ ー マ：「北海道島の成立、自然災害と考古学」
事例報告：大津直、高橋浩晃、永谷幸人、宗像公司、葛西智義
討　　論：司会　鈴木建治

②遺跡見学会

休　　止

③遺跡報告

日　　時：2019年12月14日（土）
場　　所：北海道大学学術交流会館小講堂（予定）

④月例研究会

時　　期：運営委員会開催日の15時開始　※発表者があった場合
第１回：４月20日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W102教室）：６名

①鈴木建治（国立アイヌ民族博物館設立準備室）「樺太出土の内耳土器の年代について」

⑤会誌「北海道考古学」第56輯の発行

発　　行：年１回

時　　期：2020年３月　360部発行

⑥連絡誌「北海道考古学会だより」の発行

発　　行：年３回（第124号、第125号、第126号）

時　　期：（予定）2019年７月、11月、2020年３月

⑦ホームページの管理運営

(2) 2019年度予算案

収　入

項　目	費　目	2019年度予算額(A)	2018年度決算額(B)	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,500,000	1,487,000	13,000	5,000×300件
事業収入	研究大会収入	140,000	141,000	▲ 1,000	研究大会資料集販売 140部×1,000円
	遺跡見学会収入	―	―	―	事業休止のため予算なし
	遺跡調査報告会収入	100,000	90,000	10,000	遺跡調査報告会資料集販売 100部×1,000円
	会誌等販売収入	73,000	90,382	▲ 17,382	会誌・資料集販売
	小　計	313,000	321,382	▲ 8,382	
雑　入		9,436	0	9,436	利息等
繰越金		897,564	716,692	180,872	
合　計		2,720,000	2,525,074	194,926	

支　出

項　目	費　目	2019年度予算額(A)	2018年度決算額(B)	残(▲超過)額	備　考
事業支出	研究大会費	440,000	285,656	154,344	要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等
	遺跡見学会費	―	―	―	事業休止のため予算なし
	研究会費	60,000	0	0	案内発送、研究会共催費、 発表者交通費
	遺跡調査報告会費	440,000	286,136	153,864	資料集印刷・発表者費用弁償・ 会場使用料等
	会誌印刷費	700,000	595,080	104,920	第56輯 360部／振り込み手数料
	だより印刷費	160,000	133,758	26,242	124号・125号・126号／振り込み手数料
	ホームページ費	5,000	3,402	1,598	プロバイダー契約料、更新維持管理費／振り込み手数料
	小　計	1,805,000	1,304,032	500,968	
事務支出	報償費（総会費）	50,000	50,000	0	学会奨励賞
	委員会費	100,000	24,660	75,340	運営委員会・編集委員会出席用 交通費
	消耗品費	65,000	9,078	55,922	文房具代・コピー代等
	通信費	200,000	136,740	63,260	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃　金	100,000	43,000	57,000	会誌・だより等の発送・その他事務処理
	小　計	515,000	263,478	251,522	
基金積立金		60,000	60,000	0	60周年用積立金
予備費		340,000	0	340,000	
合　計		2,720,000	1,627,510	2,092,490	

2019年度北海道考古学会基金会計

項　　目	費　　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年５月29日 10,000円送金 平成18年３月22日 10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	平成20年３月31日 10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
	50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
	保存対策費積立金		100,000	1,420,000	2012年度積立(過年度支出分補填)
	保存対策費積立金		100,000	1,520,000	2013年度積立(過年度支出分補填)
	60周年記念研究大会積立金		300,000	1,820,000	2015年度積立開始（年60,000円）
合　　計				1,820,000	
	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		1,743,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		1,583,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		1,523,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		1,283,000	2003年度支出
	50周年記念研究大会費	250,000		1,033,000	2003年10月支出
合　　計		787,000			
基　　金　　残　　高				1,033,000	

３号議案　運営委員・地域委員・監査委員の改選について

北海道考古学会会則第６条および規則２－１第２条・第３条に基づき、運営委員、地域委員および監査委員について会員による推薦と投票の結果、以下のように改選を行います。

運営委員候補

臼杵勲（再任）、石川直章（再任）、守屋豊人（再任）、松田宏介（再任）、富永勝也（再任）、長沼正樹（再任）、鈴木建治（再任）、三谷智広（新任）、内田和典（新任）

地域委員候補

第３地域　大和大知（新任）、第４地域　片山弘喜（新任）、第５地域　渡邊つづり（再任）、第６地域　乾茂人（再任）、第７地域　平河内毅（再任）、第８地域　大鳥居千鶴（新任）、第９地域　加藤朋夏（新任）、第10地域　笹田朋孝（再任）

監査委員候補

角田隆志（再任）、瀬川拓郎（新任）

2019年度　研究大会報告「北海道島の成立、自然災害と考古学」

2019年度研究大会は、５月11日(土)に北海道大学学術交流会館２階講堂で開催され、参加者は会員58名、一般参加者31名、合計89名であった。

2018年９月６日に北海道胆振東部地震が発生し道民の生活が大きく揺らいだ。過去に北海道に居住していた人々は地震、津波、火山噴火などの自然災害にどのように遭遇、適応してきたのか。自然災害史や自然災害の発生構造とあわせて理解し、防災意識をより高める基盤となるような研究としたい。

このような趣旨から本大会は「北海道島の成立、自然災害と考古学」と題し、地質学、自然災害科学・防災学、考古学の各分野から近年の災害研究の成果を紹介して頂く内容を企画した。大津直氏には地質学の視点から、北海道島の成立と地質基盤について講演をお願いした。高橋浩晃氏には自然災害科学・防災学の視点から北海道の地震津波・火山噴火の災害史について講演をお願いした。考古学からは永谷幸人氏に北海道における災害考古学の可能性について、また宗像公司氏と葛西智義氏には東日本大震災の復興支援の派遣職員として被災地の埋蔵文化財業務に従事された状況を、それぞれお話しいただいた。

まず大津氏は、地質時代区分とプレートテクトニクスの基礎を解説し、日本列島の地質基盤が付加帯

＋火成岩＋変成岩であり火山噴火や地震が頻発するメカニズムを説明された。その上で北海道島の成立と北海道周辺の地質環境の変遷、石狩低地帯東部の野幌丘陵や馬追丘陵、富良野盆地など道内の特定地域における、段丘などの地形と活断層などの地殻変動との関係について述べられた。

続いて高橋氏は、北海道に人間が居住して以来生じた主な地震津波、火山噴火について説明された。遺跡の発掘調査から過去の地震津波や火山噴火の履歴が判明すれば、定量的な災害リスクの事前推定と対策が可能となると述べられた。北海道では18世紀以前の地震津波・火山噴火については考古学の情報が必須であり、発掘調査や報告書から災害誘因と要因を検討することに期待すると結ばれた。

永谷氏は、「災害」を自然現象が人間および人間社会に被害を与える場合として定義し、遺跡の発掘調査で検出された地割れ、断層、噴砂、側方流動、火山噴火、山体崩壊などを「災害」痕跡として評価するべきと述べられた。年代が明らかな例として1663年の有珠山噴火や1640年の駒ケ岳噴火・津波の痕跡が検出された伊達湾有珠地区を取り上げ、災害への意識が低い現在の住民に対して考古学から注意喚起できる可能性を示された。

宗像氏は東日本大震災の復興支援で、北海道から岩手県への埋蔵文化財派遣職員として2013年度の事業に従事した際の状況を報告された。異なる道府県からの派遣職員が協力する体制や、調査原因となる復興事業の種類が解説され、復興道路建設に伴う試掘調査の状況、県が支援した市町村の発掘調査から越廻館、中平遺跡、片岸貝塚の調査風景や現地説明会の様子もスライドで紹介された。

葛西氏は同じく東日本大震災の復興支援で、深川市から岩手県陸前高田市への埋蔵文化財派遣職員として2013年度に発掘調査と報告作成に従事した状況を報告された。北海道教育委員会からの派遣要請から現地入りまでの経緯、現地での待遇や生活状態などに触れながら、陸前高田市に所在する堂の前貝塚、内田遺跡、荒沢I遺跡の発掘調査および整理作業の実際について説明された。

遺跡の発掘調査を担う考古学が災害の痕跡について十分に把握し、地質学や自然災害科学・防災学の分野と密接に連携することが将来の災害の軽減に寄与できる可能性や、被災後の復興事業の具体的なあり方についての示唆を得ることができた大会となった。

北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の募集について

北海道考古学会規則第５号にもとづき、下記の要領で北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の候補者を募集します。

１．北海道考古学会賞

趣旨：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体の功績を称える。

候補者の要件：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体（所属会員の有無を問わない）。

２．北海道考古学会奨励賞

趣旨：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究に大きく貢献した若手研究者の研究活動を奨励する。

候補者の要件：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）において優れた研究を行い、将来の発展に貢献すると期待される満40歳未満（受賞年の４月１日現在）の会員。

３．応募・選考方法（北海道考古学会賞・同奨励賞とも）

(1) 自薦および他薦とする。

(2) 締切 2020年１月30日（必着）。

(3) 所定の応募用紙を学会ホームページからダウンロードし、学会事務局あてに郵送もしくは電子メールで送付する。

【送付先】北海道考古学会事務局

〒069-8555　江別市文京台11番地　札幌学院大学人文学部人間科学科　臼杵研究室気付

【電子メールアドレス】hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp

(4) 北海道考古学会賞選考委員会（副会長、運営委員２名、一般会員２名から構成）が、応募書類をもとに各賞の趣旨に沿って業績を総合的に判断して選考する。

４．その他

(1) 北海道考古学会奨励賞受賞者に授与される研究奨励費は５万円とする。

(2) 受賞式出席にともなう交通費は支給しない。

(3) 応募書類は返却しない。

(4) 個人情報は、各賞の選考以外の目的で使用しない。
＊学会賞の規則については「だより」109号およびホームページを参照ください。

月例研究会の発表者募集

※内容などの詳細は、決定次第、ホームページでお知らせいたします。
※会員の皆様で、月例会での研究発表を希望する方は北海道考古学会事務局
（hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp）までご一報ください。

事　務　連　絡

新入会員のお知らせ

石田肇（琉球大）、中塚凪沙（余市町）、矢野加奈（株式会社胆振）、中里智也（専修大学生）、百々千鶴（深川市）　＊敬称略

会誌「北海道考古学」第56輯の投稿について

『北海道考古学』第56輯（2020年３月刊行）は特集を組まず、一般号を予定しています。皆様からのご投稿をお待ちしております。

原稿の締め切り日は下記のとおりですが、投稿を希望する方は、編集の都合上、10月25日（金）までに会誌編集委員会事務局まで電子メールによる連絡をお願いいたします。

学会ホームページまたは『北海道考古学』第55輯（2019年３月発行）に掲載されている原稿の分量・体裁等を厳守の上、ご投稿ください。

投稿希望連絡先	hokkaido.kokogaku@gmail.com
エントリー締め切り日	2019年10月25日（金）
原稿締め切り日	2019年12月９日（月）（必着）
原稿送付先	投稿希望をいただいた方に個別にご連絡差し上げます。

刊行物の販売について

会誌『北海道考古学』、研究大会資料集、遺跡報告会資料集を販売しております。購入をご希望の方は、北海道考古学事務局あてにお問い合わせください。

会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願いいたします。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770-6-8358　　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　（学生）3,500円

北海道考古学会だより　　第124号　　2019年７月６日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http://haa.main.jp/cms/）
事務局：〒069-8555　江別市文京台11番地札幌学院大学
人文学部人間科学科　臼杵研究室気付　北海道考古学会事務局
E-mail：hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp
印　刷　北海道図書企画　　(011)668-1131